

2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 2 月 7 日作成)

小委員会名	建築ストック法制度研究小委員会	主 査 名：竹市尚広 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築法制委員会	委員長名：赤崎弘平
設 置 期 間	2009 年 4 月～2013 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>現在我が国においては、膨大に蓄積された建築ストックの合理的利用が重要な課題となっている。2005 年 4 月から設置された前建築ストック法制委員会では不適格建築物に対する知見を取りまとめた。その成果を継続し、具体事例として防火避難規定を取り上げて、深く調査・研究することにより建築ストックに求められる性能水準やそれらの向上策について探求する。</p> <p>初年度：建築法制の変遷の調査、現行法規における建築物に求められる水準と既存不適格の水準との乖離の実態と問題発生メカニズムの把握。</p> <p>2 年度：建築ストックが満たすべき現実的な水準、対策・手法の調査。</p> <p>3 年度：既存建築物の規制等のあり方に関する研究と提言案の取りまとめ。</p> <p>4 年度：上記の成果に基づくシンポジウム等の開催を通じた意見収集と、最終報告。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	竹市尚広 (竹中工務店)、西野加奈子 (建築・住宅国際機構)、林広明 (大成建設)、飯田直彦 (日本建築構造技術者協会)、黒木正郎 (日本設計)、五條渉 (建築研究所)、小林恭一 (東京理科大学)、杉山義孝 (日本建築防災協会)、春原匡利 (東京都防災・建築まちづくりセンター)、土屋伸一 (明野設備研究所)、兵藤幸治 (BEEGL 研究所)、平野吉信 (広島大学)、松本光平 (明海大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2012 年度予算	90,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/housei/s0/

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	(次年度、学会編による単行本を刊行予定)
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	なぞ
大会研究集会	1. 建築ストックの建築法制度—防火避難での課題 参加者数 78 名 (資料名は研究協議会名に同じ)
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 4か年計画の最終年度として、以下の項目を取りまとめた。</p> <ul style="list-style-type: none"> a) 建築ストックの防火避難における既存不適格の実態と、改善・改修の妨げとなる原因となっている法制度の課題の抽出 b) 建築ストックに対する法制度の国内外事例 c) 現行法制度の改善提案 <p>2. 2012年大会にて研究協議会を行い、討論を行った。</p> <p>3. 次年度、成果を出版すべく準備を行っている。 (仮称、建築ストック社会と建築法制度 防火避難規定編)</p>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<p>前小委員会の活動(2005~2008)と合わせた計8年間で建築ストックに対する法制度上の課題は一通りまとめることができ、その成果を出版する目処が立った。 (前小委員会の活動成果は既刊)</p> <p>今後は一般社会に知ってもらい、法制度の改善に如何につなげるかが課題。</p>

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。